

愛の日を振り返る

昭和 30 年代に千代田区の五番町から、外濠をわたって牛込の台地に転居した。

町の名前は「新宿区筆筍町」で、江戸時代に御筆筍組の屋敷があったことからできた町名だそうだ。

その時代の地図を調べてみると、御筆筍町の近くには御納戸町、御徒組、拂方町などが並んでいる。

これらの町の名が、筆筍町・納戸町・払方町などとして今でもきちんと残されていることは喜ばしいことだと思う。

我が家から徒歩で 5 分位、大久保通りの南に入った所に「新宿区立愛日(あいじつ)小学校」があった。鉄筋コンクリートの、しっかりしたきれいな作りの学校だった。

この町に住み着いたばかりの頃には「あいひしょうがっこう」と読むのかなと勝手に想像し、「あいじつしょうがっこう」と読むことを知ったのは一時経ってからだった。

小学校や中学校の校名には、その土地の名(町名)を冠したものが多く、一見ミッションスクールを思わせるような校名に驚いたのが正直なところだった。

「この学校の名前はなぜ?」の疑問が頭から離れぬまま、この町を去り国立に転居した。それから 50 年余りの歳月を経て、再び疑問が蘇ってきたので、あらためて調べてみることにした。

「愛日小学校の歴史」として、ホームページに詳しく書かれていた「学校の沿革」はこうだった。

明治 3 年(1870 年)	東京府第三校として開設
明治 6 年(1873 年)	第一大学区第三中学区第二番公立小学「吉井学校」となる(市ヶ谷加賀町)
明治 7 年(1874 年)	同学区内に第四番公立学校として「市ヶ谷学校」が創立(市ヶ谷柳町)
明治 13 年(1880 年)	両校を合併して、現在の地に「愛日校」を創立(牛込北町)
明治 19 年(1886 年)	愛日尋常高等小学校となる
明治 37 年(1904 年)	津久戸小学校新設に伴い 500 名余を移管
明治 39 年(1906 年)	市ヶ谷小学校新設のため 200 名余を移管
明治 41 年(1908 年)	高等小学校を牛込高等小学校として分離して、愛日尋常小学校となる
大正 3 年(1914 年)	長延小学校新設のため 200 余名を移管
大正 11 年(1922 年)	この頃、児童数=1,172 名(男子=588 名 女子=584 名)
昭和 19 年(1944 年)	学童集団疎開で栃木県へ
昭和 20 年(1945 年)	戦災により焼失(疎開先から戻った生徒は付近の学校に分散)
昭和 21 年(1946 年)	学校跡地には、戦災者都営簡易住宅を設置
昭和 27 年(1952 年)	新宿区立愛日小学校の設置が決定(我が国初の 4 階建て校舎) 市ヶ谷・津久戸・仲之小学校を分校として分離・分散教育
昭和 32 年(1957 年)	第一期工事を完了して、二学期より新校舎で始業
昭和 55 年(1980 年)	開校百年記念式典
令和 2 年(2020 年)	開校 140 年

歴史を誇る由緒ある学校であること、時代の荒波に翻弄されながらも消えずに残った学校であることがわかった。同じような時代に創設された学校の中で、旧藩校などが母体となっている学校は地名を冠しない校名がついて現在に至っているものも少なくない。

江戸時代の地図を見ると、愛日小学校の場所は「小出信濃守の屋敷」になっている。

様々なことがわかって面白い探索ではあったが、肝心な「愛日小学校の校名の由来」はわからなかった。

徳島、大阪などにも同名の学校があるようだし、「敬時愛日」という言葉があるようなので、何かそのあたりとつながっているのかもしれない。

以上